

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	研究科造園学専攻		
科目名称	園芸福祉特別演習						授業形態	講義・演習	
科目コード	642612	単位数	8単位	配当学年	1	実務経験担当教員	○	Active・L	○
担当教員名	林 典生							ICT活用	○
授業概要	本授業の目的は、人間と植物との関係や園芸福祉に関わる理念とその変遷を国内外の書籍、研究論文等から積極的に探ることを行います。次にこれらの資料を参考にして論点を明らかにして、園芸福祉に関わる実践活動における実際の調査や計画立案、研究課題へと応用します。最後に、ひとつの研究としてまとめる一連の作業までを体験し、修士論文の執筆に向けた実力を身に付けます。								
関連する科目	同時に人間植物関係学特論Ⅰ・Ⅱ、園芸福祉特論Ⅰ・Ⅱを履修すること								
授業の方法と進め方	国内外の論文・書籍等をまとめて発表を行う中で、人間と植物との関係や造園福祉にかかわる基本概念や基本知識を再確認するとともに、研究計画に反映させる。必要に応じて対象とする園芸福祉に関する活動現場との打ち合わせを行いながら、調査を実施する。データ等は持ち帰り整理・分析等を行い、まとめた結果を報告・意見交換を行い、今後の研究に反映させる。毎回の授業にてテーマに沿って、調査や取りまとめた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。								
第1回	1.オリエンテーション 園芸福祉特別演習の第2～15回の計画を説明し、確認する。 2.修士論文の目的作成（その1） 修士論文の研究目的について学び、作成する。 3.修士論文の目的作成（その2） 作成した修士論文の研究目的に検証を行い、改善する。 4.修士論文の目的作成（その3） 検証・改善した修士論文の研究目的の整理を行い、明確化させる。 5.修士論文の目的作成（その4） 明確化させた研究目的に基づき、研究計画を立案する。 6.修士論文の目的精査（その1） 立案した研究計画に関連する研究対象を精査する。 7.修士論文の目的精査（その2） 研究対象の精査を踏まえて、研究対象を確定させる。 8.修士論文の目的精査（その3） 確定した研究対象に関する研究方針を立案・検証する。 9.修士論文の目的精査（その4） 立案・検証した研究方針に関する研究内容の手法を検討する。 10.修士論文に関連する先行研究 先行研究の大切さを伝え、検討した研究内容に関連する文献の収集方法を学ぶ。 11.先行研究の検証（その1） 学んだ収集方法を用いて、収集した文献に関して多面的に分析・検証する。 12.先行研究の検証（その2） 学んだ収集方法を用いて、収集した前回と異なる文献に関して多面的に分析・検証する。 13.先行研究の検証（その3） 学んだ収集方法を用いて、収集した前2回と異なる文献に関して多面的に分析・検証する。 14.先行研究レビュー作成 第11～13回で使用した複数の文献に関する分析・検証を用いて、先行研究レビューを作成する。 15.先行研究レビュー発表・修士論文の研究計画への反映 先行研究レビューを発表・意見交換し、その成果を修士論文の研究計画に反映させる。 16.現地調査について 園芸福祉特別演習の第16～30回の計画を説明し、確認する。 併せて、第15回に反映させた修士論文の研究計画に基づき、現地調査を企画・立案する。 17.現地調査の準備 第16回に企画・立案した現地調査の準備を行い、確認する。 18.現地調査の実施（その1） 第17回に確認したことを踏まえ、準備を現地調査を実施する。 19.現地調査の実施（その2） 第18回に引き続き、現地調査を実施する。 20.現地調査の実施（その3） 第18・19回に引き続き、現地調査を実施する。 21.現地調査の実施（その4） 第18～20回に引き続き、現地調査を実施する。 22.現地調査の実施（その5） 第18～21回に引き続き、現地調査を実施する。 23.調査データ・資料の集計・解析（その1） 第18～22回で実施した、現地調査で収集したデータ・資料の集計・解析を行う。 24.調査データ・資料の集計・解析（その2） 第23回に引き続き、現地調査で収集したデータ・資料の集計・解析を行う。 25.調査データ・資料の集計・解析（その3） 第23・24回に引き続き、現地調査で収集したデータ・資料の集計・解析を行う。 26.調査データ・資料の集計・解析（その4）								

- 第23～25回に引き続き、現地調査で収集したデータ・資料の集計・解析を行う。
- 27.調査データ・資料の集計・解析（その4）
第23～26回に引き続き、現地調査で収集したデータ・資料の集計・解析を行う。
- 28.中間発表プレゼンテーション準備
集計・解析データをまとめて、中間発表の資料を作成する。
- 29.中間発表プレゼンテーション
第28回の資料を用いて、中間発表を行い、意見交換を行う。
- 30.修士論文の研究計画への反映
第29回の中間発表・意見交換を踏まえて、今後の修士論文の研究計画に反映させる。
- 31.研究結果の検証
園芸福祉特別演習の第31～45回の計画を説明し、確認する。
併せて、第30回で反映させた研究計画を踏まえて、研究結果の分析・検証の方向性を確認する。
- 32.調査データの取りまとめ（その1）
第31回での分析・検証の方向性を踏まえて、調査データの分析・検証を行う。
- 33.調査データの取りまとめ（その2）
第32回に引き続き、調査データの分析・検証を行う。
- 34.調査データの取りまとめ（その3）
第32・33回に引き続き、調査データの分析・検証を行う。
- 35.調査データの取りまとめ（その4）
第32～34回に引き続き、調査データの分析・検証を行う。
- 36.調査データの取りまとめ（その5）
第32～35回に引き続き、調査データの分析・検証を行う。
- 37.調査データに関する考察（その1）
第36回まで実施した分析・検証に基づき、調査データに関する考察を行う。
- 38.調査データに関する考察（その2）
第37回に引き続き、調査データに関する考察を行う。
- 39.調査データに関する考察（その3）
第37・38回に引き続き、調査データに関する考察を行う。
- 40.調査データに関する考察（その4）
第37～39回に引き続き、調査データに関する考察を行う。
- 41.調査データに関する総合考察（その1）
第40回までの考察内容に基づき、総合考察を行う。
- 42.調査データに関する総合考察（その2）
第41回に引き続き、総合考察を行う。
- 43.調査データに関する総合考察（その3）
第41・42回に引き続き、総合考察を行う。
- 44.調査データに関する総合考察（その4）
第41～43回に引き続き、総合考察を行う。
- 45.修士論文の研究計画への反映
第44回までに実施した総合考察の発表・意見交換を行い、今後の修士論文の研究計画に反映させる。
- 46.修士論文執筆について
園芸福祉特別演習の第46～60回の計画を説明し、確認する。
併せて、第45回で反映させた研究計画を踏まえて、修士論文執筆について確認する。
- 47.修士論文執筆指導（その1）
第46回で確認したことを踏まえて、修士論文執筆指導を行う。
- 48.修士論文執筆指導（その2）
第47回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 49.修士論文執筆指導（その3）
第47・48回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 50.修士論文執筆指導（その4）
第47～49回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 51.修士論文執筆指導（その5）
第47～50回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 52.修士論文執筆指導（その6）
第47～51回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 53.修士論文執筆指導（その7）
第47～52回に引き続き、修士論文執筆指導を行う。
- 54.修士論文執筆指導（その8）
第47～53回に執筆指導した修士論文の内容を検証・指導を行う。
- 55.修士論文プレゼンテーションに関する説明
修士論文プレゼンテーションに向けて注意点や準備することを確認する。
- 56.修士論文プレゼンテーション準備（その1）
第55回の確認を踏まえて、修士論文プレゼンテーションの資料を作成する。
- 57.修士論文プレゼンテーション準備（その2）
第56回で作成した資料を確認し、修正を行う。
- 58.修士論文プレゼンテーション準備（その3）
第57回で修正した資料に基づき、発表練習を行い発表内容の確認を行う。
- 59.修士論文プレゼンテーション
第58回までに確認した内容に基づき、修士論文プレゼンテーションを行い、意見交換を行う。
- 60.まとめ
第59回の修士論文プレゼンテーション・意見交換を踏まえて、修士論文を修正して提出する。

授業の達成目標	授業を通じて、人間と植物との関係や園芸福祉活動についての幅広い知識を身に付け、実態を把握・計画するとともに、活動現場と協働しながら評価する上で不可欠な技術力や観察力、分析力を高めることが期待される。【教養・専門分野の知識・理解】 【教養・専門分野、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力のスキル向上】【自己管理能力、チームワーク・リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力の態度・志向性の涵養】【統合的な学習経験と創造的思考力の養成】
学位授与方針(DP)との関連	1.知識・技能と教養-(1)食・緑」の専門分野における高度な知識・技能／1.知識・技能と教養-(2)未知問題解決のために知識・技能を創造的に活用できる。／2.人間力・社会性・国際性-(1)豊かな個性を発揮して課題を発見し、探求することができる。／2.人間力・社会性・国際性-(2)課題を広い視野で捉え、客観的に評価ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(3)主体性を持って多様な人々と協働し、課題解決ができる。／2.人間力・社会性・国際性-(4)自分の文化や異なる文化を理解でき、文化を超えて交流できる。
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に園芸福祉論に関する資料を授業前に読む。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。4時間程度必要です。
授業時間外学【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など、主に園芸福祉論に関する資料を授業後に理解が曖昧な時は再度精読する。また、園芸療法等の園芸福祉に関する実践活動に関する知見を深め、社会的意義を理解するために、身近な活動現場に赴き、その実態や位置づけなどについて考察を深める。4時間程度必要です。
課題に対するフィードバック	課題等は確認した後に返却します。必要に応じてコメントします。
評価方法・基準	受講態度や発表、報告物に関して、課題の理解、関係資料の活用、論点の整理、独自の視点について毎回のプレゼンテーションレポート（100％）で評価する。
テキスト	関連書籍及び関連論文
参考書	授業中に紹介するが一例として、以下の書籍を紹介する。 Sharon Pastor Simson, Martha C. Straus, editors（1998）Horticulture as therapy principles and practice.Food Products Press（都城キャンパスに蔵書有） ミッチェル・ヒューソン著/升井めぐみ訳（2000）園芸療法実践入門 心へのアプローチ.筒井書房/エンパワメント研究所
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務（社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づいて）やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、それに基づいて授業内容に反映させる。